

ACT

Art, Culture, Tradition

49

[発行] 札幌市教育文化会館  
アクト第49号

FEBRUARY 2025



日本舞踊

NIHONBUYO

# 日本舞踊

日本に数多ある伝統文化は、日本だからこそ生まれた表現や技法を、長い年月に渡って受け継ぐことで「日本らしさ」を備えたものとして成立してきました。能楽や歌舞伎などいくつかの伝統芸能がありますが、そんな中で日本を冠しているのが「日本舞踊」。はたして日本舞踊はどのように生まれ、現在まで受け継がれてきたのでしょうか。そして、日本舞踊が表現する「日本らしさ」とはどのようなものなのでしょうか。今回のACTでは、日本舞踊の魅力の一端をご紹介します。





Fuji-musume  
藤娘

Renjishi  
連獅子

Sagi-musume  
鷺娘

NIHONBUYO Traditional Japanese Dance

# 日本舞踊の成り立ちから現在まで

## 歌舞伎から生まれた日本独自の舞踊

日本における舞踊の起源については諸説ありますが、日本舞踊に直接つながる歌舞伎に限ると、1603年、出雲の阿国による「かぶき踊」から始まりました。かぶき踊は遊女や若い男性(若衆)が踊ることで短時間で広まっていましたが、江戸幕府は、風紀を乱すことからそれらを禁止しました。その後、男性のみが役者をする野郎歌舞伎が生まれ大流行するとともに、その表現も踊りだけでなく物語や音楽が組み合わされた総合芸術として大きく発展していきました。

歌舞伎の流行は浮世絵に見られるようなスター俳優を輩出するだけに留まらず、音楽やセリフ、踊りなどあらゆるものが流行しました。歌舞伎に影響を受け、そこで行われる歌舞伎舞踊を踊りたいという人々が現れ、振付を担当していた人が指導者としても活動しはじめ、お稽古事としての踊りが広まっていきました。歌舞伎は男性にしか出来ませんが、踊りの腕の立つ女性が師匠になることもありました。

大正に入ると、日本舞踊は歌舞伎から発展を遂げ、お稽古事に留まらない舞台芸術として独立しました。プロの日本舞踊家が多数輩出され、多くの人を魅了し伝統芸能の一大潮流を築きました。

そして昭和期には習い事としても普及するとともに一般家庭の子女もプロの日本舞踊家を志し、日本舞踊は興隆の時を迎えました。現代では国の重要無形文化財として指定を受けるなど、その芸術的価値が評価され、国内外で日本を代表する舞踊として発信されています。

## 日本舞踊がもつ独自性

日本舞踊といえば誰も思い浮かぶのが着物を着て踊る姿ではないでしょうか。着物を着てなめらかに弧を描く動作、流れに沿って揺れる袂、ひらりとなびく裾などに日本の美が表れています。また、美しいしぐさや立ち居振る舞いを原点とする日本舞踊は、日本の佇まいや礼節といった見えない心の一端を感じることもできます。

特徴は他にもあります。日本舞踊では様々な役を演じます。ある時は可憐な娘、またある時は勇ましい武士、老婆や狐など、その役柄は多岐にわたります。1つの作品の中で、1人の演者が何役も踊り分けたり、次々と別人物になるなど、日本舞踊ならではの趣向もあります。そのため日本舞踊家は様々な表現力、高度な技術力が必要とされます。

また、風景描写も行うというのも日本舞踊の特徴です。吹く風や木、山に出る月など、舞踊家が自然の一部となって風景を描写するのは、バレエやフラメンコなど他の舞踊にはほとんど見られない特徴です。扇で打ち寄せる波を描く、袂で雪を除けるなど、直接、または間接的に自然の出来事や気象を表現します。これは古来から和歌でも行われている、他のものでなぞらえて表現する「見立て」であり、日本独特の表現が色濃く息づいているといえるでしょう。

## 現代における日本舞踊

日本舞踊は他の多くの伝統芸能と異なり、老若男女を問わず誰でも習うことができる上に、舞台に立ち、修行次第ではプロになることができます。何歳まででも長く取り組むことができるのも魅力のひとつであり、プロを目指すだけでなく、礼儀作法や立ち居振る舞いを身につけるため、日本の文化にもっと親しむためなど、目的も習う人によってさまざまです。多くの人々にとって、一番身近に体験できる伝統芸能といえるでしょう。

日本舞踊には流派があり、主要な団体である(公社)日本舞踊協会に加入しているだけでも100以上の流派があります。伝統芸能と聞くと、ずっと変わらない表現と思いがちですが、日本舞踊はそうではありません。日本舞踊家は、学んだ古典の技法を基に、より洗練させた形で表現を深めています。作品についても、戦後にはオペラやバレエ、現代音楽などを取り入れた作品が作られはじめ、現在でも新作が生まれ続けています。

過去から受け継いだ伝統を次代へ伝えるとともに、現代に適応した新しい形を常に模索している日本舞踊は、伝統と現在を併せ持った最先端の伝統芸能といえるのではないのでしょうか。

# 日本舞踊

NIHONBUYO  
Traditional  
Japanese Dance

世界にはそれぞれの土地や文化をルーツとして生まれた踊りがたくさんあります。「踊り」という人間にとって原初的な表現に、それぞれ土地の環境や人々の風俗を取り入れ、独自の表現を持ち得るに至った舞踊の数々。日本において、その代表といえるのが日本舞踊です。歌舞伎を母体に生まれ、育まれ、舞台芸術としても表現される日本舞踊とはどのようなものでしょうか。

## 日本舞踊の特徴

日本舞踊は所作や作品の傾向、そこに込められた精神性など他の舞踊にはない特徴をたくさん持っています。数多ある特徴の中から、ここでは見た目からわかるものを厳選してご紹介します。

### 首の振り

特徴的な所作である首の振り向き方。「三つ振り」と言って「一・二・三」のリズムに合わせて首を振ります。女形の場合、最後に頭を傾け艶っぽさや可愛らしさを表現します。

### 扇子

舞扇とも呼ばれる扇子は、日本舞踊にとって欠かせない小道具。扇ひとつで多くの表現が行われます。持ち手や柄には多くの種類があり、演目によって変えたり舞台装置や衣裳に合わせてコーディネートすることも。

### 重心

バレエは身体を引き上げ重心を高く保ちますが、日本舞踊では下に置くのが基本。腰に重心を置き、しっかり床を踏みしめるために自然体で胸を張り腰を落とす姿勢を取ります。

### 着物

日本舞踊の魅力といえば着物。所作や動きの美しさは、すべて着物を身につけた時に発揮されます。ずっと伸びた背筋に軸の通った動き、なめらかに弧を描く動作、そうした流れに沿ってなびき揺れる着物の動きも含めて美しさが追求されています。

## 日本舞踊の演目ピックアップ

日本舞踊の多様な演目の中から3作品をピックアップしてご紹介します。

### 藤娘(ふじむすめ)

大津(滋賀県大津市)で人気の土産物に「大津絵」がありました。その中に藤を掲げた美しい女性の絵「藤娘」、その絵をモデルに作られたのがこの演目です。藤の絡んだ松の大木の前に若い娘の姿になって現れた藤の精が、移り気な男心と切ない女心を語り、恋心のもどかしさを踊ります。日本舞踊といえば藤娘と言われるほど代表的な演目です。



### 鷺娘(さぎむすめ)

雪が降り積もる中、綿帽子をかぶり、白無垢に黒帯姿で佇む鷺の精。恋の恨みを思い出し雪の中を歩くうち、華やかな振袖姿となり恨みだけではない様々な恋心を踊ります。しかし最後には恋の地獄で責めを受け、息も絶え絶えになりながら懸命に羽ばたきますが、最後には力つきてしまいます。圧巻のラストシーンはバレエ『瀕死の白鳥』の影響もあるとか。



### 連獅子(れんじし)

わが子を谷底に落とし、這い上がってきた子だけを育てるとする獅子の伝説を描いた作品。父である白毛の獅子が赤毛の仔獅子を谷底に蹴落とし、仔獅子が試練を乗り越えて這い上がってくると、お互い駆け寄り喜び舞い踊ります。後半には、二人の息のあった「毛振り」という最も象徴的な場面があり、獅子の勇壮さとともに親子の情愛を感じさせます。



©(公社)日本舞踊協会

## 伝統文化である日本舞踊の未来

日本舞踊は伝統を礎にしつつ、踊り手によってさらなる洗練と変化が生まれ続けています。3月20日に教文で開催される『北海道日本舞踊公演 一多彩な演目で贈る日本舞踊の魅力』では、童話『ピノキオ』を題材とした新作舞踊『櫓男=びのきお=』に加え、古典的な日本舞踊の美しさを味わうことのできる作品が上演されます。まさに日本舞踊の最前線を体験できる貴重な機会です。日々進化を繰り返す日本舞踊は、これからも伝統を礎としながら進化を続け、私たちに未知なる感動を与え続けてくれるでしょう。

## 北海道日本舞踊公演

[第1部] 箏曲 令和薫風(れいわくんぷう)  
大和楽 早春(そうしゅん)  
荻江鐘の岬(かねのみさき)

[第2部] 日本舞踊未来座=彩(SAI)=  
櫓男(びのきお)

令和7年 3月20日(木・祝) 14:00開演(13:30開場)  
札幌市教育文化会館大ホール



日本舞踊で描く、心温まる“びのきお”の物語をぜひご堪能ください。